

板橋区の資金管理及び運用状況について

区では、「板橋区資金運用方針」に基づき、会計管理者が管理する資金について、元本の安全性を最重視するとともに、流動性の確保と効率性の追求を図りながら管理・運用に取り組んでいます。

1 歳計現金等

歳計現金等とは、区の歳入歳出に属する現金のことで、日々の支払いに準備している現金（歳計現金）と、区の歳入歳出に属さない現金で法令等に基づき区の責任において一時的に受払いをする現金（歳計外現金）をいいます。

<管理・運用方法>

歳計現金等の管理・運用は、指定金融機関その他の確実な金融機関への預金での保管を基本としており、資金収支の予定を作成することで、受払い状況に支障をきたさぬよう細心の注意を払っています。

<運用実績の概要>

- (1) 資金収支を精査し、コロナ禍による影響を考慮したうえで譲渡性預金にて運用しました。
- (2) 令和2年度の実績は、平均残高は前年度より大きく増加していますが、これは上半期に定額給付金の原資を短期間保管していたためで、下半期は平年よりも平均残高は落ち込み、余裕資金が少額だったことに加え、預金利率の低下もあり運用収入が減少しました。

単位：千円

	令和2年度	令和元年度 (平成31年度)	平成30年度
平均残高	19,579,000	13,036,000	14,905,000
運用収入	426	694	739
平均利回り	0.002%	0.005%	0.005%

2 基金

地方公共団体が特定の目的のために、財産を維持し、資金を積立て、または定額の資金を運用するために設けた財産で、将来の特定事業への負担に備えるための資金です。一般家庭で言えば貯金にあたるものです。

<運用方法>

基金は、運用目的及び積立て・取崩し計画を勘案したうえで、金融機関への定期預金や債券等の購入等により運用を行っております。

<運用実績の概要>

(1) 基金の運用状況

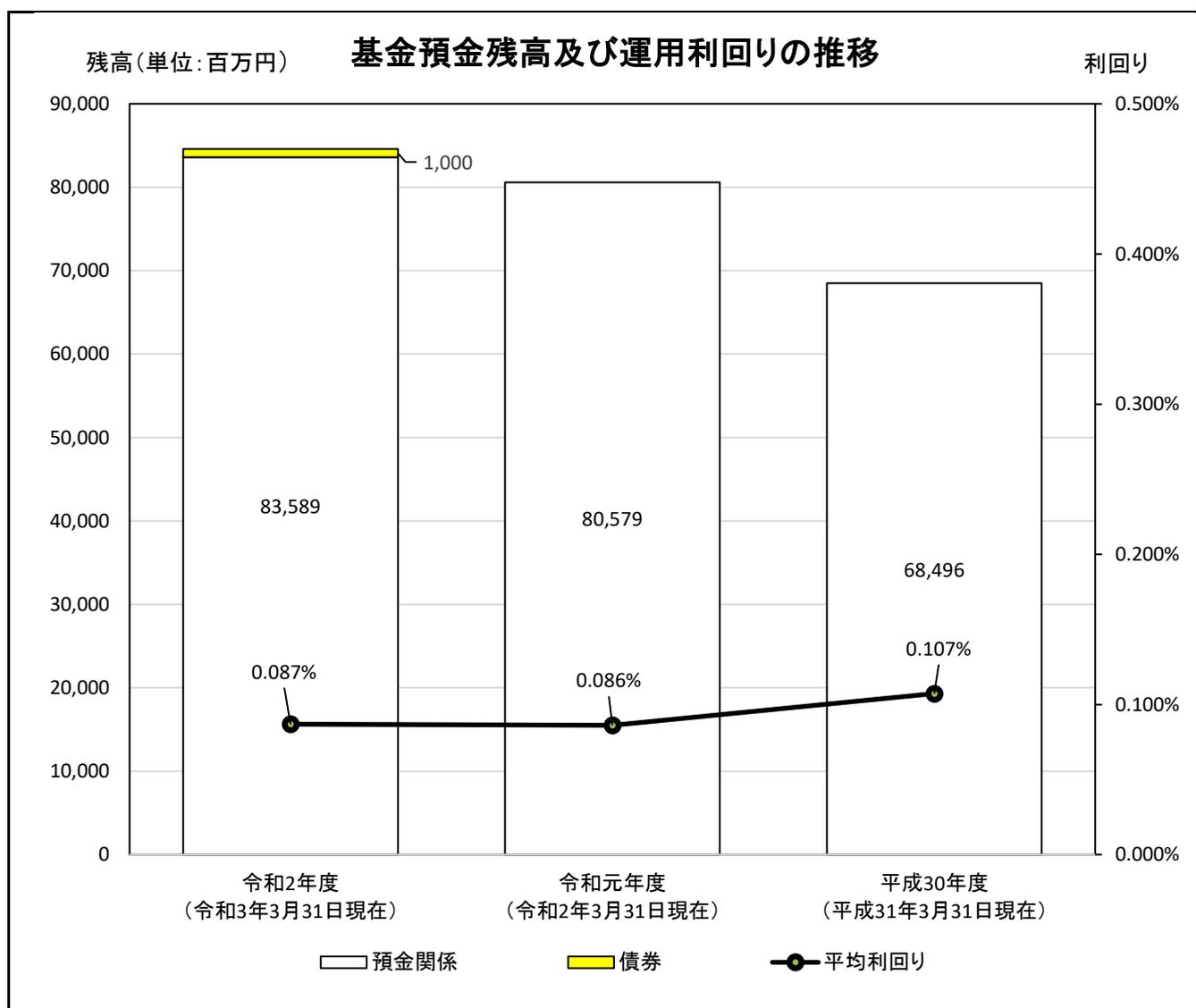
令和2年度は、安全性を確保しつつ比較的利回りの高い定期預金を中心に運用を行いました。運用収入及び平均利回りともに前年度と比較して微増となりました。

また、今年度より債券（地方債、財投機関債）による運用収入があります。

単位：百万円

区 分	令和2年度			令和元年度(平成31年度)			平成30年度			
	R3.3.31 現在高	運用 収入	平 均 利回り	R2.3.31 現在高	運用 収入	平 均 利回り	H31.3.31 現在高	運用 収入	平 均 利回り	
預金関係	83,589	69	0.087%	80,579	59	0.086%	68,496	62	0.107%	
債 券	1,000	1		0	0		0	0		0
計	84,589	70		80,579	59		68,496	62		

*平均利回りについては、当該年度の運用収入を前年度末日の現在高で除した数値で算出しています。



(2) 金融機関種別の運用内訳

金融機関の選定では、引き合いを実施し、金利はもとより、格付け会社の評価や区への貢献度等を総合的に判断し決定をしています。また、今年度より元本の安全性や収入の確保を図るために債券（地方債、財投機関債）での運用を行っております。

単位：百万円

区 分	令和2年度 (令和3年3月31日現在)		令和元年度 (令和2年3月31日現在)		平成30年度 (平成31年3月31日現在)	
	運用額	割合	運用額	割合	運用額	割合
都市銀行	6,589	7.8%	5,579	6.9%	3,496	5.1%
地銀・信金等	77,000	91.0%	75,000	93.1%	65,000	94.9%
債券	1,000	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
計	84,589	100.0%	80,579	100.0%	68,496	100.0%

*割合については、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

